

淡路町知財研究会 2025年1月18日



歴史に学ぶ 「御木本幸吉の特許戦略」2025

弁理士 永井 隆



なぜ、歴史に学ぶか

■ 従来の知財研究

参考：日本知財学会 学術研究発表会のカテゴリー

- (1) 知財制度、国際化に関する課題
- (2) ブランド・デザイン・コンテンツマネジメント
- (3) 先端技術、IT、データ利活用
- (4) バイオ・ライフサイエンス
- (5) 知財人材育成、知財教育
- (6) 知財経営
- (7) ビジネスモデル、ESG、SDGs
- (8) 知財の実証分析
- (9) その他(知的財産の新領域等)
- (10) 学生発表

■ 自分として、今一つ面白くない

「**愚者は経験に学び、賢者は歴史に学ぶ**」(独宰相ビスマルク)

→ これだ !!



これまでの歴史に学ぶシリーズ

- 御木本幸吉の特許戦略（初出：2016/2/6 Smips*）
明治時代、現代に通じる特許戦略を屈指
- ライト兄弟の特許戦略
独占欲が強すぎて産業発達を阻害
- ニコラ・テスラの特許戦略
エジソンとの電流戦争を制した天才
- ナチス・ドイツ時代の発明（淡路町 未発表）
科学技術から社会・経済システムまで
- チキンラーメンの初期パッケージからひも解く知財戦略
模倣品を知財ミックス（特・意・商・不競）で撃退

永井隆プロフィール

■ 知財経験30年

参考: (第68回) 知財実務オンライン:

「産(企業)・官(特許庁)・学(大学)、そして副業
～知財いろいろ経験談～」

<https://www.youtube.com/watch?v=11DSn5RRQws>





(プロローグ)クレオパトラと真珠

- 当時世界最大の真珠の耳飾りを所有
- ローマの将軍アントニウスに豪華な宴を約束
→将軍は「いつもと変わらない」と不満
- クレオパトラは、耳から真珠を外して、ワインビネガーに入れて溶かし、一気に飲んだ
- 将軍は驚き、クレオパトラの勝ち!!

キーワード

- 特許庁十大発明家で異色の存在
- 海産物商から養殖真珠へ
- 特許取得、真珠事業に専念
- 特許による独占化
- 激しい特許攻防戦
- 真円真珠の開発（見瀬、西川）
- 世界進出
- エジソンに賞賛される
- 大日本真珠組合による特許管理
- 商標



産学連携（技術&人材）、特許訴訟、貿易摩擦、パテントプール



特許庁 十大発明家で異色の存在

- 1. 豊田佐吉 (木製人力織機、自動織機) 技術者 (小学校卒)
- 2. 御木本幸吉 (養殖真珠) 事業家? (学歴無)
- 3. 高峰譲吉 (タカヂアスターゼ、アドレナリン) 学者 (帝大卒)
- 4. 池田菊苗 (グルタミン酸ナトリウム) 学者 (帝大卒)
- 5. 鈴木梅太郎 (ビタミンB1、ビタミンA) 学者 (帝大卒)
- 6. 杉本京太 (邦文タイプライター) 技術者 (電信技術養成所卒)
- 7. 本多光太郎 (KS鋼、新KS鋼) 学者 (帝大卒)
- 8. 八木秀次 (八木・宇田アンテナ) 学者 (帝大卒)
- 9. 丹羽保次郎 (NE式写真電送機) 学者 (帝大卒)
- 10. 三島徳七 (MK鋼) 学者 (帝大卒)



略歴

- 安政5年(1858) 志摩国生まれ
- 明治10年代 海産物商、鳥羽町議会議員等 20代
- 明治21(1888) 養殖真珠研究開始 30歳
- 明治29(1896) **特許取得(2670号)**、妻うめ死去 38歳
真珠事業に専念
- 明治32(1899) 銀座に御木本商店を開く 41歳
- 明治38(1905) 明治天皇に拝謁 47歳
- 大正2(1913) ロンドン支店開設 55歳
- 大正13(1924) 宮内省御用達、貴族院議員に勅撰 66歳
- 昭和2(1927) エジソンと会見 69歳
- 昭和29(1954) 逝去、勲一等瑞宝章 96歳



真珠養殖への道

- 大航海時代に世界の真珠が欧州に集まる
→ 王侯貴族に人気
- 真珠は儲かる
- 天然は収穫が不安定 → 養殖出来れば
- 学者の指導を仰ぐ
東京帝大 箕作佳吉（みつくりかきち）博士ら
→ 産学連携のはしり

特許第2670号(1896)

- 御木本、初めての特許(成功率1~2%)
発明の名称: 真珠素質被着法
→ 養殖事業に専念
- 他者からの出資を拒否
→ ひも付きになるのを懸念
- ただし、本特許は半円真珠(真円は未完成)





特許請求の範囲

- 1.本文記載の第一から第四の目的を達成させるための硝子、貝殻、又はこの場合にあつて硝子、貝殻と等しき用をなせる物質をもって、球、又は一所切落としの球を作り、食塩をもってこれを磨くか、又は濃厚食塩水中にこれを浸し、その後、生きた真珠貝の中に挿入して、真珠素質を被らせる方法



明治天皇への拝謁

- 日露戦争後に伊勢神宮に行幸（明治38）
- 御木本の大言壮語

「必ず真円真珠養殖を完成してお見せします。」

→「西川藤吉」（娘婿）が完成

「世界中の女の首を真珠でしめて御覧にいます。」

→世界進出で達成



特許による独占を狙う

- 競業者を告訴(特許侵害刑事事件) 明治39(1906)
→三重県の北村幸一郎ら3名
- 特許法の制定(明治18)から、僅か20年だが、
積極的な権利行使
(当時、特許出願1200件、登録170件)
- 相手も必死の反撃



なぜ刑事告訴か

- 当時の特許法には、差止・過失推定・損害賠償額の算定等の特則はなかった。
- 刑事罰：十五日以上三年以下の重禁固又は十円以上五百円以下の罰金
- 民事的救済は、民法の規定による。
- 差止等は、現行法（昭和34年改正法）で初めて規定された。



侵害事件の攻防

- 相手側の反論

クレーム要件1,3は公知、イ号は要件2を充足せず
特許局への「**権利確認審判**」、「**無効審判**」

- 御木本側は大物弁理士を起用
内村達次郎(元特許局)

- 一審(安濃津地裁)は有罪(懲役3月)、無効審判も却下

→御木本の勝利 明治44(1911)



侵害事件の攻防ー続き1

- 御木本は、特許存続期間を10年延長
→存続期間:25年(15+10)

明治42年特許法改正の規定

「存続期間は15年であるが、重要な発明であって、権利の存続期間中に正当な理由によって相応の利益を得られなかった場合、3年以上10年以下の延長が出来る。」

出願	明治二十七年九月十三日
特許	明治二十九年一月二十七日
特許年限	十五年
特許期間延長許可	明治四十四年二月二十八日
存続期間	十年

特許第2670号



侵害事件の攻防ー続き2

- 被告人側は控訴(名古屋控訴院)
- 判決は、逆転無罪 明治45(1912)
→要件1,3は公知であり、被告人は要件2を用いていない。
- 検察側は大審院に上告
- 判決は、上告棄却 大正元年(1913)
→無罪が確定



侵害事件の結末

- 2670特許はほとんど価値なし
→ 訴訟によるライバルへの牽制効果あり
- 真珠養殖業の「営業の自由」の確保
- 真円真珠完成への道
→ 見瀬辰平（みせ たつへい）、
西川藤吉（にしかわ とうきち）、
桑原乙吉（くわばら おつきち；歯科医）、
藤田輔世・昌世（東京帝大）ら



真円真珠養殖法の開発-1

- 見瀬辰平 三重県生(1880～1924)

養父が海外真珠に興味を持ち、その影響
三重県水産試験場に指導を仰ぐ

漁業権の認可申請に、御木本の圧力

特許出願 (明治40年(1907)5月13日出願)

→特許願38318号 西川特許と抵触

事業家としては失敗

真円真珠養殖法の開発-2

- 見瀬辰平





真円真珠養殖法の開発-3

- 西川藤吉 大阪府生(1874~1909)

東京帝大で水産動物学専攻(箕作教授の弟子)
御木本の娘と結婚(御木本養殖場で研究)

→のち、淡路の自家実験所と三崎の
東京帝大臨海実験場で研究

特許出願 (明治40年(1907)10月24日出願)

→特許願40219号 見瀬特許と抵触

癌のため35歳で死去

真円真珠養殖法の開発-4

- 西川藤吉





真円真珠特許の抵触問題

- 当時の特許は、先発明主義
→ 発明完成日が基準
- 最終的に見瀬が譲歩
 1. 西川の病気悪化で生存中の解決が必要
 2. 東京帝大及び大日本水産会よりの調停交渉
 3. 東京帝大等の権威を重んじた
 4. 紛争の継続が国家的事業の発展を阻害する

西川特許

- 特許30771号 「真珠形成法」

大正6年2月15日特許(1917)

特許権者:西川眞吉 (藤吉の息子)





特許請求の範囲

1.一の貝よりその真珠袋を構成すべき細胞及びこれに接続せる組織を含める貝体の一片を切り取り、これとともに適当なる核をその貝又は他の貝の組織中に挿入し以て真珠を形成せしむる方法

2.一の貝より真珠袋を構成すべき細胞及びこれに接続せる組織を含める貝体の一片を切り取り、これをその貝又は他の貝の組織中に挿入し以て真珠を形成せしむる方法



海外進出

- ロンドンに初出店(1913年)

天然物真珠を取り扱っているロンドン、パリの
宝石商に大打撃

「驚くほど精巧にできていて、天然真珠と見分けがつかない養殖真珠が現れ、真珠市場が混乱に陥っている」(ロンドンタ刊紙『スター』)



国際真珠裁判

- イギリスとフランスで裁判に発展

オックスフォード大学、フランスのボルドー大学の鑑定

→「天然と養殖の違いは、真珠の中心核が自然に導入されたか、人為的だったかのみ。真珠層そのものには違いがない。」

イギリス、フランスの両方とも訴訟を取り下げ、
養殖真珠は世界に認められた



国際標準単位 匁(もんめ)

- 真珠の重さの単位

匁(3.75g)

国際標準単位 momme

養殖真珠が世界に向けて輸出され、販路を拡大していき、**真珠の重さの単位が「匁」になった。**

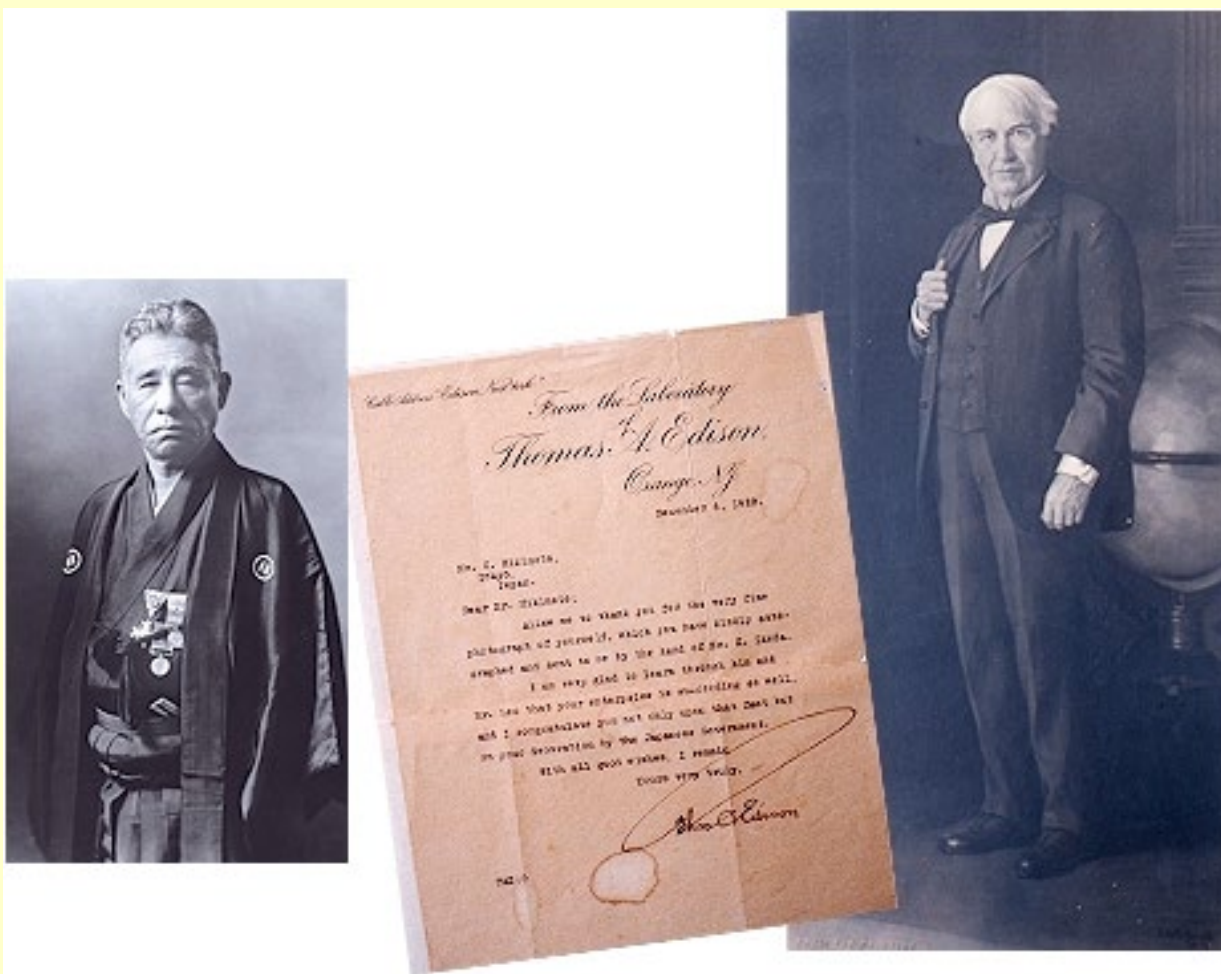


エジソンとの会見1

- 欧米視察でエジソンと会見 昭和2年(1927)
エジソンに賞賛される。

「俺は、ダイヤモンドと真珠だけは化学的に出来なかった。貴様は、真珠を動物学的に作って、西洋に先駆けたのだから偉い。」

エジソンとの会見2





大日本真珠組合

- 西川特許を実施するための組合 昭和3(1928)
真円真珠特許を組合員に許諾する。
→今でいう**パテントプール**
御木本が他社特許を実施するための策謀

商標

- 約300件の商標権所有
- 最も古い登録

第33844号 明治41年(1908年)現在も存続中
(現在も御木本製薬(御木本グループ)の社章として使用中)





御木本幸吉とは

- 単なる発明家ではない！

特許制度を巧みに利用！

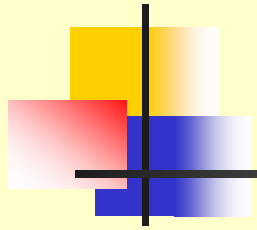
産学連携、特許訴訟、パテントプール等の
現代でも通じる特許戦略を屈指！

卓越した事業家である!!



参考文献

- 御木本幸吉 大林日出雄 吉川弘文館(1971)←種本
- 真珠の発明者は誰か? —西川藤吉と東大プロジェクト—
久留太郎 勁草書房(1987)
- 世界の美しい王室ジュエリー 二見書房(2024)



ご静聴ありがとうございました。